

系材
ア
レト
ウ
リ
ー
ポ
コ

屋外使用でも黄変なし

東京ライノ 米社製ガンをリリース

米ライノ・ライニング社

の日本総代理店の東京ライノ(東京都江戸川区緒方修一社長)は、屋外でも黄変しないポリウレア樹脂系コーティング材を発売する。伸び率40%を超える既存の主力品と合わせて拡販する。加えて、海外製スプレーガンの販売業者と提携し、小型装置のリリースも

始める。

同社のコーティング材は、約1時間で歩行可能な程度に硬化して高い伸び率、防水性、耐薬品性を発揮する。東京ライノは「ライノ・エクストリーム」を中心に船舶デッキや工場床といった分野で展開しているが、このほど「ライノ・ソーラーマックス」の日本市場へ

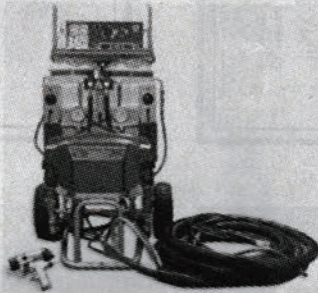
の投入を決めた。

ポリウレア樹脂は紫外線や黄変しやすく、屋外の被塗物の場合はトップコートを用いることが多い。ソーラーマックスは芳香族ではなく、脂肪族ポリウレア樹脂を採用することで問題を解決した。塗装コストは1平方

と若干高くなる見込みだが、工期短縮で総工費を抑えることができる。

ポリウレア系コーティング材は主剤と硬化剤を混合しながら吹き付けて塗装するため、スプレーガンが必須とされる。大型装置では価格が100万円にのぼり、これまで導入の障壁となっていた(緒方社長と指

ミニバンでも運搬可能な小型装置



摘する。これを受け、東京ライノでは米国で評価の高いクラコ社製のガンを国内で販売するアイシス(大阪市東淀川区)と提携した。1日当たり100〜150平方メートル塗布可能な

小型装置を月4万〜5万円程度でリリースする。4トトラックが必要だった従来の大型装置と違い、ミニバンでも運搬可能。修理などはアイシスが対応する。米カリフォルニア州に本社があるライノ・ライニングは1988年に設立した。同社製品は当初トラックの荷台などに使われていたが、TNT爆弾にも耐える強度が注目され、現在は軍用用途にも採用が拡大。代理店を通じた販売網は世界80カ国に広がっ

ている。

東京ライノは、ライノ製品の輸入販売を目的として2014年に発足した。「タフクリップ」「エクストリーム」を中心に屋根用の「エココート」、各種化学薬品に耐える「ハイゲム」を展開し、新製品や新装置の拡充により、今年度5億円の売り上げを目指していく。